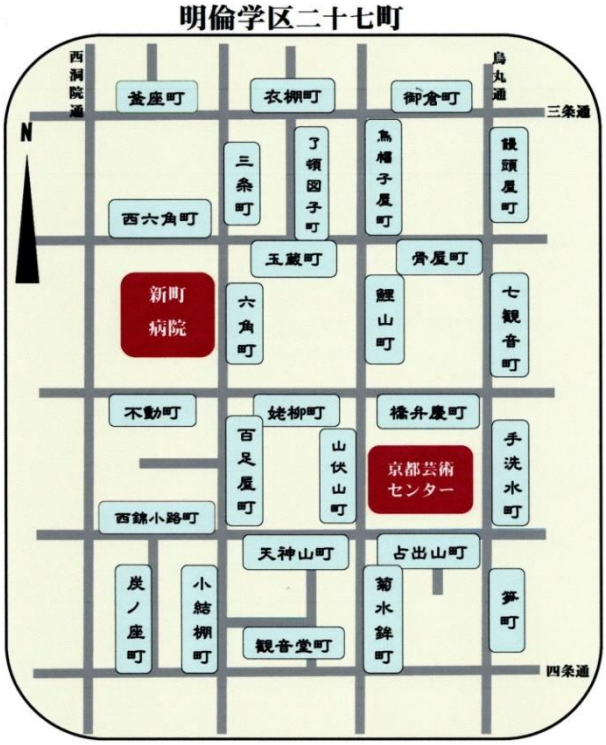
明　倫
まちづくり NEWS

第５号 2025.6.15

発行　明倫まちづくり委員会
部数　２０００部

まちづくり委員会の歩みと近況

明倫学区は昔から呉服を中心とした商いが盛んなまちでした。祇園祭の山、鉾を出すお町内も多く、私は京都の伝統を受け継ぐまちとしての印象を強く持っております。しかし昨今のまちなかを見てみると、マンションが建ち並び、次にはホテルがあちこちに出現、最近はホテルの宿泊客を見越しての飲食店が急激に増えてきました。私たちのまちはこの先どのようなまちになるのか、その変化の勢いがいつまで続くのか気になるところです。



2000 年に明倫学区にまちづくり部会が発足し、数えてみると今年で 25 年目を迎えます。発足当時もまちの変貌に危機感を覚えた学区民が、あれこれと知恵を出し合い私たちのまちの個性を維持したいとの強い思いを持って集まったのが委員会設立のきっかけです。まちの様子を知るための「まちあるき」、これまでのまちを知るための「明倫夜話の座」、まちの変貌を緩やかにするための「地区計画づくり」、明倫学区の個性を壊さないようにするための「景観づくり協議会」など、ハード・ソフト両面での取り組みを続けております。

５月 11 日には学区内のまちあるきをしました。学区のいたる所で飲食店が増え、まちなかの様子が大きく変わっております。また、駐車場も目立つようになりました。空いた土地の利用としてまず駐車場がつくられますが、そのほとんどが暫定的な利用です。その後建てられるであろう建築物がどのようなものになるのか、気になります。

新しい建築計画を景観協議会で計画者から聞かせてもらうことをしておりますが、多くが通りに面して植栽を考えておられます。ただ、植栽があるということはその手入れも必要になります。通りにはみ出し通行の妨げになるもの、落ち葉が散らかっているところなど、あまり手入れをされてるようには見えないのが残念です。雨の日には、はみ出した植栽からのしずくや落ち葉によって滑りやすくなるなど、あまりいい景色とは思えません。飲食店のゴミ箱も気になりました。飲食店の営業時間は大体が午後から、もしくは夕方からですので、朝の景色はあまりいいものとはいえなくなってきています。道が汚れていくと、ゴミのポイ捨てなどを誘引するような気がします。安全で安心なまちに暮らすためには綺麗なまちづくりが必要です。お互いが意

識して、明倫学区が綺麗なまちであり続けることができるように努力したいと思います。　（記.小島）

まちづくり委員会とは

細い路地から外国人がぞろぞろ、日常的に観光客が行き来する、明倫学区。祇園祭のまち・明倫は今どうなっているのか。どのようにまちづくりを進めていけばよいのか。

2025 年 5 月 1 日現在の明倫学区には

分譲マンション 22 棟

賃貸マンション 32 棟

ホテル　10 棟

飲食店　150 件以上

（テナント内は不明）

新築改築についての意見交換数

2018 年　新築・改築・20 件

2019 年　新築・改築・13 件

2020 年　新築・改築・10 件

2021 年　新築・改築・10 件

2022 年　新築・改築・18 件

2023 年　新築・改築・17 件

2024 年　新築・改築・25 件

＊看板新設・改設は件数に入れていませんが毎年多数あります。

上記は明倫地区地域景観づくり協議会(明倫景観協議会)が直近 7 年間に行ってきた協議の件数です。1 件につき最低 30 分、長くて 1 時間、これでも足りない場合は何回か景観協議をしたデータです。

明倫地域の景観を守るとは、もともとは呉服のまちであり、祇園祭のまちとして成り立ってきた歴史があり、各山鉾町がその文化を伝えてきた地域であったことから、祇園祭に出す山や鉾の懸装品の選別、管理、修復など呉服の文化と一体の商家が連なっていた地域でありました。このことが明倫まちづくり委員会の基本スタンスになっています。お祭に山鉾を出す、その山鉾が映えるような景観、山鉾を映えさせないものは避ける、建物の色彩は目立ちすぎない、家並みは凸凹なく連なるほうがよいではないのか、建物の内部が丸見えになるのは勧められないが、どうしてもデザインがそうなら、中の様子も考慮してほしい。門前の植栽はこの地域には無かったもの、敷地一杯の建築はしないでほしい、室外機は目立たないように、外部照明は明る過ぎず、電飾看板も同様に、この地は飲食街ではないので飲食の看板も即物的なものではなく想像させるものが望ましい等々、このような内容の話し合いを続けて祇園祭の街にふさわしい街にしようと活動しているわけです。私たちの考え方を理解していただいた建築や看板は多数あります、が一方で協力していただけないケースも多々あります。何を偉そうにと思われるかもしれませんが、私たちはこれを守って街を創ってきたもの、守ってきたものを壊されたくないし、壊されてしまえばこの地域の特性が失くなる、ということは**京都が京都で失くなる**ことだと思うからです。考え方の違いや、感覚の違いというものもあり、数値化したものや形態を提示出来ない**もどかしさ**とまちづくり委員会だけの意見で良いのかという**ためらい**もあり、一体京都市は地域を守ろうとしているのか開発しようとしているのか、そんな京都市に協力してよいのかという**ジレンマ**もあります**。**でも**、**いつ何時、隣の家が壊されてホテルやマンションになるかわかりません。これはこの地域に住まう人、誰にでも起こりうることだと思います。まちづくり委員だけで考えることではなく、住民みんなが地域の歴史と文化を尊重しつつ、どうすれば活気のあるまちづくりを共に進めていくことが出来るかと考えています。　(記.長谷川)

「京の都」に居住して…

祇園祭「八幡山」の町内に居住していると、ご町内の方々との交流がとても深まります。約三十五年ほど前に、明倫自治連の事務方を手伝うことになり、そこから自治連の活動をさせていただき、「まちづくり委員会」を立ち上げました。当時は日本経済の好景気によって、高層ビル建設が猛烈な勢いで進んでいた時代でした。私の自宅の西側に十三階建ての巨大マンションが建ち、四方巡る各町内からも反対運動が起き、裁判問題にまで発展して行きました。当時の京都市建築行政審査会の巽京大教授は「…景観・町並みの保全にとって極めて残念な事と言える。…京都市が進めている都市景観・町並みの保全、そのための建築協定を無意味にするほどその場にふさわしくない規模と形態を示している…マンション建築業者は…住民の意向に耳を傾け、都市景観や町並み、周辺住民の住環境に十分配慮した建築を計画することが求められよう…」との特別な**付言**をされています。しかしながら、当時の建築業界の方向は、街並みに配慮せずにドンドン建築を進めて行った…と思われます。

歴史都市「京都」の中心部にあり、「京町家」として

の存在として、他府県からの観光客のみならず、今となっては、海外からの観光客からも、その重要性、そして歴史的景観として認識されています。

現在、明倫学区住民の八割がマンション居住の方々と思います。自分たちが居住する「地域環境」のみならず、「祇園祭山鉾町の地域」としての歴史、そしてそれらの保存に関しても、深い思慮が必要だと思います。この「明倫」と言う地域居住者の方々の責任としても、それらの意識が必要だと思われますね。

（記．井上）

飲食店ができると…

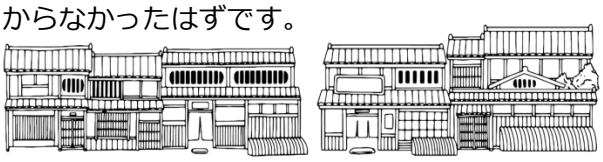
2020 年 2 月、飲食店の実情を確認しながら、各店舗を訪ねて「明倫ルールブック」を配布するとともに「景観や近隣の住環境にご配慮いただきたい」とお願いした。その時、学区内に約 200 もあること、ほとんどのお店がルールブックの存在を知らなかったことに驚いた。2015 年に景観まちづくり協議会制度に認定されて以来 5 年の間、毎年平均 5 件の飲食店と協議していた。それからさらに 5 年が経った 2024 年度、1 年間に協議会で意見交換をおこなった飲食店は 12 件（実現していないものも含む）、数が増えているだけではなく、入れ替わりも激しくなっている。飲食店が一つ増えるとなぜかその周辺にも増え、町並みがどんどん変わっていくだけでなく、町家やテナントビルの中で長時間、大量の火力を使うようになっても大丈夫なのかという不安が生じる。地震などの災害時に、お客様の避難・誘導など、対応や対策はどうなっているのだろう。不安を解消するためにお互い顔のわかる関係を作り、ともに明倫学区を良くしていく機会として、防災面からの支援・協働をともに考えていくというのはどうだろう。防災訓練への参加などを機に形を変えた「商い」と「暮らし」が「綺麗に」共存するまちを一緒に作っていきたいと思う。　(記　丹羽)

何屋さん？

景観協議会で、まちあるきをしたところ、色々協議した看板も実際は、まちゆく人たちには見てもらえていないようです。ほとんどの人がスマホの案内画面を見ながら歩かれています。その様子を見ると本当に京都の街並や看板などを見て歩かれているのか気になるところです。

今では、看板で客を呼び込むことが重要ではなく、SNS の普及により他の人の投稿がお客様を呼び込む看板になっているようだとも思います。

看板は、カラフルな看板ではなく白色や黒色などを中心に使った洒落た屋号を書くようなデザインにして、見やすくシンプルさが重要なものに統一されるとすっきりとした街並になるのではないでしょうか？それでは、個性がないとお叱りを受けるかもしれませんがずっと昔の京町家はどのお宅も同じ向きに玄関があり格子の奥にお店があるのでガラス戸越しに「何屋さん」などとすぐにはわからなかったはずです。

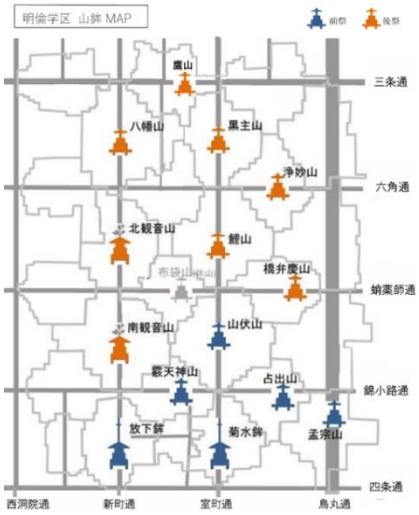


もう一度、昔に戻ることは難しいですが落ち着いたまちなみになって欲しいと願うばかりです。

（記.塩月）

「祇園祭のまち」の印象とは

まちの印象は？との質問に、転居から数年の間にも移り変わる景色をまえに答えに窮しました。印象は何から受けるのでしょうか。通りを歩くと、道路に埋め込まれた四角い石「山鉾建目印」を目にします。明倫学区には、山鉾巡行の山や鉾を出す 15 のお町内（休み山 1 町）があると知れば、よく見かけるのも合点がいきます。付近には宵山のころ御神体を拝み、お囃子に耳を傾け懸装品を鑑賞した建物が見えます。京町家もその機能を備えるビルもあり、伝統を受け継ぐなかで生まれる創意に敬服するばかりです。では、山や鉾がなければ祇園祭とは無関係なのでしょうか。広報誌「明倫」に掲載された、学区の全 27 町を紹介するコラム「町内探訪」からは、祇園祭とのかかわりは山鉾巡行だけではないと気づかされます。もちろん、通りで見かける石碑や駒札も、町の由緒や山鉾の見どころを伝えていて、お町内はおまつりを迎える空間でもあると思い至ります。どうやら、目に映るものとそれを支える見えないものも、印象につながるようです。時代に呼応して移りゆくなかで、工事の影響か所在不明となった駒札のように、「祇園祭のまち」の印象までもが不在とならないように。先人の知恵や創意を道標に進みたいと思います。



（記.今村）

「町内探訪」の QR コードです

夜話の座(明倫のあれこれが良くわかる講座)

明倫まちづくり委員会では、「夜話の座」を通じて学区の伝統を受け継いでいきたいと考え２００３年から明倫学区にお住いの方、お仕事をされている方、行事に関わっている方々に明倫の昔話や特有のお話、祇園祭のことなどを聞かせていただいてきました。まちなかの様子も大きく変わってきた今、明倫人の考え方、人と人との関係、佇まい等を考える機会として**今秋 10 月頃から芸術センター3 階会議室**にて開催予定です。

明倫のまちづくりに対するご提案ご意見などをお待ちしています。

keikan@meirin-news.com